

2024年度 町田市立小山中央小学校 学校経営計画・学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

令和7年2月8日

<p>学校教育目標 ◎考える子 ○思いやりのある子 ○元気な子  <b>確かな学力・豊かな心・健やかな身体をもち、力をあわせてよりよい社会をつくり出そうとする児童の育成</b></p> <p>○目指す学校像・・・①家庭・地域と共に歩む学校・児童の健全育成のための主体的参加型のコミュニティ・スクール「共に育てる・共に育つ」共有の推進 ②考える楽しさや学び合う喜びが感じられ、確かな学力が身に付く学校                  ③児童一人一人のよさが認められ、自己肯定感が高まる学校 ④安全と健康を大切にしている学校                  ○目指す児童像・・・①地域を愛し地域に親しむ子供 ②よく考え、ねばり強く取り組む子供 ③思いやりをもち、互いのよさを認め合い、助け合う子供 ④心身健康で安全に元気に活動する子供                  ○目指す教師像・・・①保護者・地域との連携・協働を大切にしている教師 ②専門職としての自覚と高い指導力をもち、協働し、学び合う教師                  ③誠実で思いやりがあり、丁寧な言葉づかいや礼儀などに範となる教師 ④危機管理能力の向上、及び、自身の心身健康保持増進による継続的な教育の質の向上に努める教師</p>	<p>学校経営の重点 ①地域、家庭とともに連携して教育活動を推進する。②個別最適化の推進において「qubina」の活用、浸透をしていく。③異学年交流や他校との連携を推進し、特別支援教育を位置付けた校内研究や研修を充実していく。④体力向上、さらなる安全教育を浸透していく。</p> <p>①サマースクールの実施、地域への校外学習、地域の方の出前授業やサポート活動等、地域学校協働本部を中心にボランティアコーディネーターの貢献により学校経営が円滑に行われた。雑木林は、雑木林委員会や施設課の管理のもと、教育環境が一層充実した。行事運営におけるPTAの協働も安定的な協働体制が構築できた。今後も、地域、家庭とともに連携して教育活動を推進していきたい。                  ②週10以上のChromebookの持ち帰りの実施や学び合いの学習で使用頻度が向上した。個別最適化の推進において、特別支援学級も含め「qubina」の活用が浸透してきた。                  ③特別支援学校との異学年交流や他校との連携を推進し、特別支援教育を校内研究や研修で実施してきた。今後、多様性の理解や人権教育等さらに推進していきたい。                  ④熱中症対策で昨年度より時期を早めて体力テストを実施したため、測定年月が異なることから、実態を詳細に分析をして児童の課題を把握することに努めた。また、怪我の防止に向け、体育時の準備運動の徹底や環境整備に努めた。</p>
--	---

領域	教育プランに基づく経営目標	中期・短期経営目標	具体的方策	取組指標	平均	評価	成果指標	○%	評価	分析コメント	改善策	学校関係者評価記入欄	評価
社会に開かれた教育課程の実現	目指す学校及び子どもの姿を家庭や地域社会と共有・連携した教育課程を実施する。	家庭・地域・企業及び人材を生かした体験的活動を企画し、実施する。	ゲストティーチャーや地域ボランティア及び、企業と積極的に連携する。 学校運営協議会・地域学校協働本部等を通じて、本校の教育活動を周知し、実りのある協力体制の活性化を図る。	4 年間指導計画に設定した地域学校協働活動の90%以上を実施 3 年間指導計画に設定した地域学校協働活動の80%以上を実施 2 年間指導計画に設定した地域学校協働活動の70%以上を実施 1 年間指導計画に設定した地域学校協働活動の実施が70%未満 4 必要情報の90%以上を周知 3 必要情報の80%以上を周知 2 必要情報の70%以上を周知	3.6	A	A 学校評価アンケート「ア」①「地域連携教育活動」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ア」①「地域連携教育活動」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ア」①「地域連携教育活動」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ア」①「地域連携教育活動」肯定的評価 55%未満	97.7	A	・地域の企業に依頼し、社会科見学や、生活科見学を実施した。また、ゲストティーチャーを招聘し、授業を行った。 ・サマースクールは、学校運営協議会、地域学校協働本部の緊密な連携の下に実施し、盛況に行われた。講座数、講師の数は現状を維持し、VCの協力のもと円滑に運営した。 ・地域のお祭りやフェスタへの参加を意識してクラブや委員会活動を行った。 ・各行事においては、今年度の反省を生かして来年度につなげていく。ホームページの担当者から各学年からのホームページを活用した発信を更に増やすよう周知し、学校の様子をより伝えるようにしていく。	・来年度も、生活、総合の年間指導計画を基に、地域やVCと連携を取りながら推進していく。 ・学校運営協議会、地域学校協働本部の充実及び、PTAの協力により、学校行事の充実を図り、来年度に生かしていく。 ・小山市民センター祭りの出演の場を活用し、クラブを指導していく。また、雑木林の活用方法を今後も検討していく。 ・各行事においては、今年度の反省を生かして来年度につなげていく。ホームページの担当者から各学年からのホームページを活用した発信を更に増やすよう周知し、学校の様子をより伝えるようにしていく。	・地域との連携については、教育課程と照らして教育がなされている。 ・VCの役割が地域に理解され、様々な団体が開拓され、新たな人材の招聘がなされていた。 ・運動会は、PTAの活動と連携され、運営が円滑に空間された。 ・作品展は、体育館の空をを生かした、児童の日常の授業成果が十二分に表現されていた。	A
確かな学力の育成	授業改善を進め、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力等の育成とともに、主体的・対話的で深い学びを実現する。	授業をデザインする8つの取組を踏まえ、児童が「分かる できる つくる 楽しい授業」を展開する。	個に応じた指導を展開し、躰を取り除き、知識・技能を定着させる指導を積み重ねる。個別最適化学習の教材では児童一人一人の取組状況を把握し指導に生かす。 各教科の本質的な楽しさを感じ、協働で学び、つくる喜びを味わい、感動する心を育成する。	4 90%以上の授業で意識して実施 3 80%以上の授業で意識して指導 2 70%以上の授業で実施して指導 1 70%未満の授業で実施して指導	3.0	B	A 学校評価アンケート「イ」①「基礎基本習得」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「イ」①「基礎基本習得」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「イ」①「基礎基本習得」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「イ」①「基礎基本習得」肯定的評価 55%未満	92.2	A	・本年度の研究テーマが昨年度に引き続き特別支援教育ということ、どのように授業を展開すると児童が理解しやすいのかを、視覚、提示の仕方、言葉掛けを中心に研究した。交流Weekで通常学級と特別支援学級の交流を行って相互理解が深まった。 ・授業をデザインする8つの取組を授業観察での指導視点とし、指導略案をもとに校内研究テーマと関連させて各教科のねらいに沿って設定し、話し合い活動においてテーマを明確にし、児童の主体性を育てていく。 ・児童に学びの選択肢を選ばせたり、進捗状況によって課題を変えたりと学習の仕方・環境を築いていくことができた。	・特別支援学級設置校として、今後の教員の資質として重要視されている特別支援の視点をもった研究・研修を行い、さらに授業を改革する。 ・個別最適化の指導の充実に向け、継続して研鑽していく。 ・話し合い活動において、価値あるテーマを位置付けての指導の充実が課題と捉えた。協働的な活動を各教科のねらいに沿って設定し、話し合い活動においてテーマを明確にし、児童の主体性を育てていく。 ・授業後の指導において、町田市スタンダード授業改革シートを活用して、振り返りを行っていく。	・児童の活動・表現する力IQの幅は広がってきており、引き続き研究・研修を行い、授業改革の推進に期待したい。 ・「qubina」は基礎力の向上に適していると思われるが、今後はよりよい使用方法についての検討が求められる。	A
豊かな心の涵養	多様性を尊重し、自分と共に他者を大切にしようとする意識・意欲・態度を育てる。	生命を大切にしようとする心や他人を思いやる心、規範意識等を育む中で、自己肯定感を養う。	主体的に学びに向かう児童を目指し、ICT・読書・英語活動・家庭学習等も含め、すすんで取り組む態度を育成する。	4 90%以上の授業・指導場面で実施 3 80%以上の授業・指導場面で実施 2 70%以上の授業・指導場面で実施 1 70%未満の授業・指導場面で実施	3.6	A	A 学校評価アンケート「ウ」②③④⑤「学びに向かう姿勢」肯定的評価平均 80%以上 B 学校評価アンケート「ウ」②③④⑤「学びに向かう姿勢」肯定的評価平均 70%以上 C 学校評価アンケート「ウ」②③④⑤「学びに向かう姿勢」肯定的評価平均 55%以上 D 学校評価アンケート「ウ」②③④⑤「学びに向かう姿勢」肯定的評価平均 55%未満	74.1	B	・いじめを逃さないように児童の発言や行動に細かく対応していると共に、毎月実施の「心のアンケート」にて、児童の声を受け止め、早期解決を促した。 ・道徳の授業では、マイタイムで考えることができ、シェアタイムで深め、自己を振り返ることができるようになってきている。 ・他校との交流が増えるとともに、異学年での交流も推進することができた。	・いじめについては心のアンケート等で、今後も注視していく。保護者がSCの活用や保護者へ子育て相談の講演会を道徳地区公開講座を活用して実施を計画する。 ・引き続き道徳の時間や学級指導を通して、「いじめは絶対にしてはいけない」という指導を繰り返す。振り返りを大切にしている。 ・全校の取組で、挨拶運動やプラス言葉集め等、心温まる活動を引き続き実施していく。「おはようございます。」「なにかよし班集いを休みに実施したことで、落ち着いて交流することができたので、今後も継続していく。	・保護者として子供と接する時間が短くなっている世情から話をする時間や機会の確保が大切。 ・挨拶運動の成果として、来校してくる大人へ挨拶ができていく。 ・大人が規範をよりスマートフォンを使用させる場合には、家庭で責任をもって取り扱うことが重要。 ・放課後の様子から、学校に任せていて疲れているように感じる。家庭教育が大切である。 ・集会で、児童が「静かにしましよう」と言われなくていい状況に応じて静かに出来ていることが素晴らしい。 ・異学年交流を今後も続けてもらいたい。	A
健全な体の育成	正しい生活習慣を身に付けさせ、丈夫な体とたくましい心を育てるとともに、自助・共助・公助の力を身に付ける安全指導・安全教育を充実する。	運動の日常化と健康教育及び食育の充実を図り、基礎体力の向上を図る。	SDGsやオリンピックレガシーに基づき共生の精神を育み、児童の主体的・体験的な活動を全校で実施する。	4 90%以上の指導場面で実施 3 80%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 70%未満の指導場面で実施	3.2	B	A 児童アンケート17で80%以上が肯定的な回答 B 児童アンケート17で70%以上が肯定的な回答 C 児童アンケート17で55%以上が肯定的な回答 D 児童アンケート17で肯定的な回答が55%未満	91.0	A	・「生活リズムカード」の実施時期には、早寝早起き朝ごはんという基本的な生活習慣を意識化して食進する。 ・「オリピック、パラリンピック」が開催され、SDGsを考え、環境配慮の意識が向上した。 ・交通安全を警察署との連携で実施し、日々の取組で、交通安全指導を行った。情報教育でネットモラルの向上を推進した。	・更なる運動習慣の確立のため、今後もなわとび週間や持久走週間の実施を継続していく。また、体力テストの結果を分析し、各学年の児童の実態を周知して、児童の体力向上を図る。 ・「親が夜遅く帰る家庭は子供も寝るの遅くなる傾向」あり、家庭に子どもの成長を考慮して、生活習慣をつけていくことを求めている必要がある。 ・居場所がない子どもは、スマートフォンが居場所になっている傾向があり、居場所づくりの推進が求められる。 ・交通安全を警察署との連携で実施し、日々の取組で、交通安全指導を行った。情報教育でネットモラルの向上を推進した。	・「まちも、SunやWaoなどを利用して、活発に行われており、引き続きこのような遊びを通して体力の向上がなされることを期待したい。 ・親が夜遅く帰る家庭は子供も寝るの遅くなる傾向」あり、家庭に子どもの成長を考慮して、生活習慣をつけていくことを求めている必要がある。 ・居場所がない子どもは、スマートフォンが居場所になっている傾向があり、居場所づくりの推進が求められる。 ・交通安全を警察署との連携で実施し、日々の取組で、交通安全指導を行った。情報教育でネットモラルの向上を推進した。	A
その他	明るい未来を創造することを意識し、夢をもつことを促し、夢を叶えるために、今の自分がやるべきことを見出す。	将来を考え、身近な未来をより良く創造する。	避難訓練や安全指導・校内美化整備を充実させ、交通事故防止や不審者対応の安全意識、ネットマナーなどの育成、チーム支援力を高める指導充実を図る。	4 90%以上の指導場面で実施 3 80%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 70%未満の指導場面で実施	3.6	A	A 学校評価アンケート「エ」①「安全・ネットマナー」肯定的評価平均 80%以上 B 学校評価アンケート「エ」①「安全・ネットマナー」肯定的評価平均 70%以上 C 学校評価アンケート「エ」①「安全・ネットマナー」肯定的評価平均 55%以上 D 学校評価アンケート「エ」①「安全・ネットマナー」肯定的評価平均 55%未満	85.7	A	・学習、行事及び生活面で振り返りを行った。校外学習では、反省会を、今後の生活に生かすようにした。 ・自身の授業を客観的に省察する力量が向上した。	・今後もキャリア教育で、行事の目標を立て、行事後は振り返り今後につなげる。 ・授業後、町田市スタンダード授業改革シートの活用を進めていく。	・日頃よりキャリア教育を推進するとともに、活動の振り返りを進めることが求められる。 ・相手意識に立つ、思いやりのある大人に育つことを期待したい。	A

<p>取組指標の評価基準(結果数値からABCD評価へ)</p> <p>取組指標平均 3.5以上 ⇒ 評価A                  取組指標平均 3以上3.5未満 ⇒ 評価B                  取組指標平均 2以上3未満 ⇒ 評価C                  取組指標平均 2未満 ⇒ 評価D</p>	<p>成果指標評価基準</p> <p>成果指標平均 80%以上⇒評価A                  成果指標平均 70%以上⇒評価B                  成果指標平均 55%以上⇒評価C                  成果指標平均 55%未満⇒評価D</p>	<p>学校関係者評価の評価基準例</p> <p>A⇒ 取組・成果ともに十分評価できる                  B⇒ 取組・成果ともに評価できるが、さらに改善したい                  C⇒ 目標達成には至らないため、次年度の改善が必要                  D⇒ 重要な課題であるため、次年度、重点的に改善                  ※ 学校からの十分な説明をもとに、学校運営協議会で成果と課題、改善点について協議する。</p>
---	---	--

※ 学校独自に設定する場合は、枠内を修正明記してください。